

海外医療協力委員会
プロジェクト選定に関する専門部会
第2回議事録

昭和49年12月9日



国際協力事業団医療協力部

國際協力事業團

受入 月日	'84. 5. 23	0.00
		90.7
登録No.	07014	M C

13
25
K.

海外医療協力委員会プロジェクト

選定に関する専門部会第2回

- 議題 新事業団における医療協力のあり方について
- 日時 昭和42年11月18日(月曜日)
自 午前10時30分 至 午後1時30分
- 会場 國際協力事業団第5会議室(46F)
- 出席者

委員側

(委員長) 佐々学 東京大学医学研究所教授
(委員) 重松豊生 国立公衆衛生院医学部長
多ヶ谷勇 国立予防衛生研究所村山分室ビールス部長

本多憲兒 福島県立医科大学教授
(竹内正委員は海外出張中のため欠席)

医療協力部側

長尾医療協力部担当理事

後藤医療協力部長

斎藤一課長

吉本二課長

御手洗

佐藤

海保名城

JICA LIBRARY



1015370[8]

海外医療協力委員会は、医療協力部が新事業団発足との関連において、医療協力事業の将来方向をどのように捉え、また位置づけているかといった今後の基本方針及び実施体制上の変更等を問うべく、事業所移転後最初の「プロジェクト選定に関する専門部会」を開催した。本協議会は先づ第1回（10月3日開催）に統く2度目の協議会であるが、先の協議会が緊急の議題の下に開催されたのに比して、今回の協議会は、討議された内容及びその実質上新事業団発足後の最初の「プロジェクト選定に関する専門部会」たる目的と意義を担うものとなった。

以下その議事要録である。

議　事　項　目

I. 過去のレビューと将来方向の展望

1. 組織上の変遷に即して

後藤医療協力部長説明

2. 予算上の推移に即して

蒲原一課長説明

II. 問題点と頂點

III. 総会（第1回）開催について

I. 過去のレビューと将来方向の展望

1) 組織上の変遷に即して

医療協力部はこれまで二度の改組を経て現在の一課・二課体制がひきあがってきたのであるが、これは医療協力事業の性格ないし内容の変遷に応じてのことであった。要點的に私董はこれを三つの時代と呼び概括している。すなわち、

1) 無医村対策時代

旧OTCA時代の海外事業部（現派遣事業部）にて実施した奉仕的な診療活動主体の専門家派遣医療協力事業

2) 施設整備時代

海外事業部内に医療協力室が新設され、そこで実施された専門家派遣及び医療機材・医薬品供与主体の医療協力事業。

3) プロジェクト育成時代

④ 第1段階

独立事業部として医療協力部が新設されプロジェクト方式による医療協力事業に傾けて発達、そのための第一歩としての事業整理を敢行。

⑤ 第2段階

昭和44、7年頃から、専門家派遣・機材供与・研修員受入れの三本柱が有機的に連係されたプロジェクト方式による医療協力事業が主体となり、これにより効率的な事業推進ないし自助援助思想に基づく事業推進が可能となる。

⑥ 第3段階と将来方向

新事業団が発足した背景に、技術協力と経済協力との連係

による社会開発としての経済・技術協力事業の推進という思想があることを考慮すればこれから医療協力事業あるいは医療協力プロジェクトに対する考え方そのものが、社会開発、社会福祉に資するものとしてのという規定を受けるのは当然のことである。これは一言すれば「プロジェクトの大型化・総合化」ということなのだが、私達も現行の医療協力事業をこの方向に軌道修正したいと考えるものであり、また現実的にこうした方向へ動きつつあるプロジェクトとしてタンザニアの結核対策、ネバールの地域公衆衛生対策、アフガニスタンの結核・マラリア対策を執行している。しかし現状ではこうした方向に事業を育成していくことは非常に困難である。

・それはⅡの問題点と煩難に譲る。

2. 予算上の推移に即して

「医療協力事業費」の伸びが僅少であるにもかかわらずプロジェクト数が多く過ぎるため「プロジェクトの大型化・総合化」への方が打ち出せないという点を要旨とした資料の説明（別添資料 医療協力事業の概括一覧表参照）

Ⅱ 問題点と煩難

1. 以下の内容で後藤部長より問題点が開陳された。

上本Ⅰ（過去のレビューと将来方向の展望）で言及したことを行なう。同時にまた先の専門部会で討議された事項（単発専門家派遣の取り扱い方針）及び単獨特別機材供与事業等の懸案事項を考慮に加えながら問題点を明らかにすると、次のようになるであ

らう。すなわち、現行の医療協力事業をより効率的に推進し、また同時に上記Ⅰの1)の3)の(4)(第3段階と将来方向)で述べた方向に連係・展開していくためには、凡そ次のような处置と手続きが必要である。

- 1) プロジェクト事業と結びついていない現行の単独の専門家派遣及び機材供与事業は徐々に整理する、
- 2) 現行のプロジェクトを整理し、その絶続的傾向を改善し、医学教育協力プロジェクト、医学研究協力プロジェクト、公衆衛生保健協力プロジェクト等の各型態を明確にし、全体的な関連性をつける、
- 3) こうした方向を対外的・対内的に明らかにし、現行の医療協力事業を根本的に改善するためには、組織規程の改正を検討する必要があるということ、である。

2. 領 域

委員側と医協部側間で次のような質疑応答があった。

- 1) 「プロジェクトの大型化・総合化」ということが証わればいいが、新事業団となりこうした方向に向いつつあるかという頃間に對し、企画調査調整部が新設され、その方向に進みつつあるということが長尾理事より説明あつた。
- 2) 医療協力部が新事業団における医療協力事業の位置づけ及び本協力の基本方針を樹立し、これに沿うような形で事業を遂行することと併せて、他方で諸外国に対するそのP・Rが是非とも必要である。JICAの医療協力事業を単独の専門家派遣事業として受け取っている開発途上国が非常に多く、この事実か

らすれば、日本側のプロジェクトに対する考え方なりを英文で諸外国に紹介する必要があるという示唆に対して、予算的な制限で本年度中は不可能かも知れないが予算の都合がつき次第実施したい旨、斎藤一課長より回答あった。

III. 総会開催について

新事業団発足後の最初の総会をノス月ノ6日(月曜日)に開催する方向で各委員の都合を伺い事務局が調整すること、及び別紙の討議事項の下に開催することで出席諸委員の合意をみに。

以上

別 紙

海外医療協力委員会総会(第ノ回)討議事項

1. 新事業団における医療協力のあり方
2. 旧海外技術協力事業団海外医療協力委員会答申書等に対する処理経過および今後の考え方（基本方針、待遇改善、単発専門家派遣、特別機材供与、プロジェクトの大型化・総合化）
3. 無償協力との結びつき（前チョーライ病院、後発後進国への援助等）
4. 家族計画業務の推進方法
5. その他

(別添資料)

医療協力事業の概括一覧表

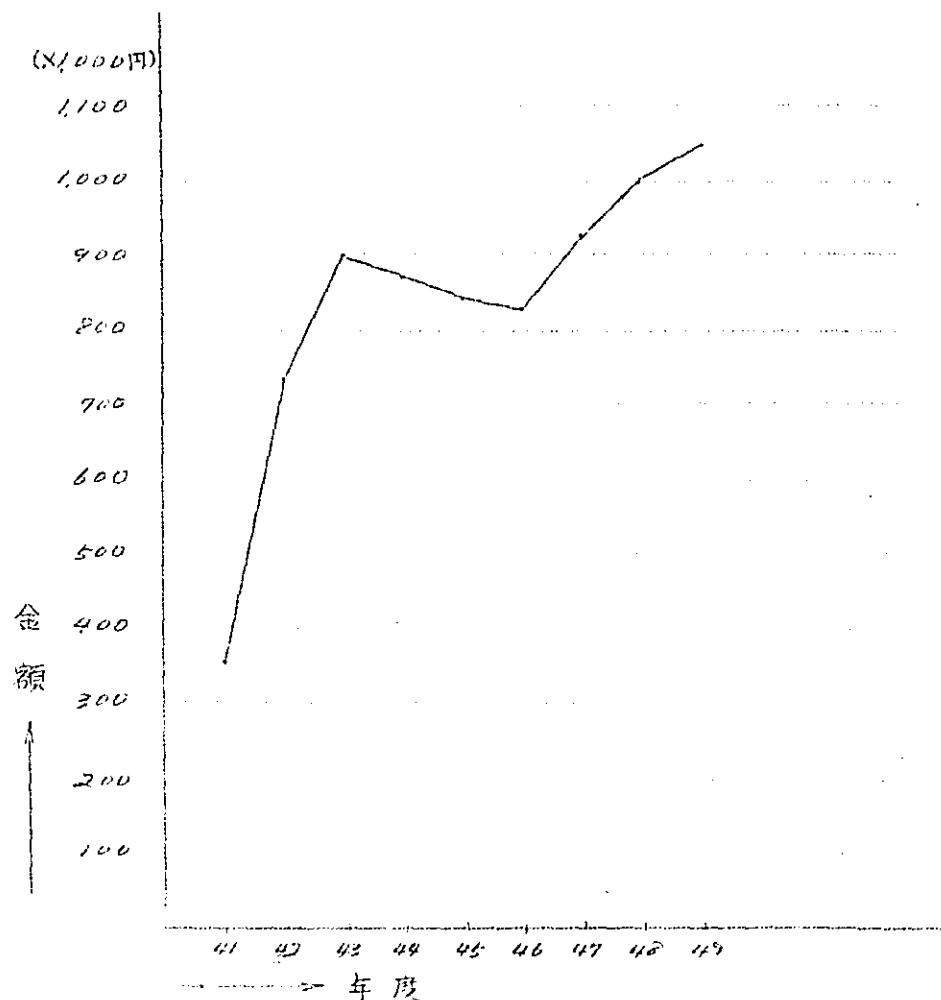
項目	年 度	昭和 41年度		昭和 42年度		昭和 43年度		昭和 44年度		昭和 45年度		昭和 46年度		昭和 47年度		昭和 48年度		昭和 49年度		備 考	
		組 織 上 の 推 移	医療協力室新設					医療協力部に改組													
医療協力事業費	予算額千円	337,845	730,500	900,000				885,143	838,143	815,671	736,864	1,023,296	1,347,774	6	1,347,774	6	1,347,774	6	1,347,774	6	グラフ No. 1
1. 調査派遣費 (含実施計画費)	予算額千円 実績額千円	9,287 8,613	22,251 16,495	40,960 30,805				11,586 9,820	22,000 17,762	24,610 17,147	51,772 46,607	63,704 59,136	72,934								
2. 専門家派遣費	予算額千円 実績額千円 人	62,999 48,612 48	212,912 210,998 120	364,840 281,411 168				470,431 314,573 207	304,688 318,318 172	366,144 337,912 163	306,755 294,640 157	323,469 319,254 131	421,464 予定 150							グラフ No. 2	
3. 機材供与費 (不動産供与額) 実績額-不動産供与額	予算額千円 実績額千円 (不動産供与額) 実績額-不動産供与額	133,508 99,881 0 99,881	346,225 303,217 72,604 230,613	504,200 475,244 105,194 370,050				403,698 505,168 73,058 412,110	511,455 360,916 0 360,916	424,911 524,192 0 524,192	513,258 415,329 0 415,329	567,040 422,717 0 422,717	697,912							グラフ No. 3	
4. プロジェクト数	1) コロンボ計画 2) 中近東アフリカ計画 3) 中南米計画 4) その他の 計		18 3 1 0	28 5 2 3				32 6 1 4	24 8 2 4	28 6 2 4	30 10 2 0	29 7 4 0							(1) 内はフォロー ツアープロジェクト数		
5. プロジェクト規模 の推移	1) 調査貸実績額 プロジェクト数 (既完工・7.7%分)	662	747	810				228	467	455	1,109	1,145									
	2) 調査貸実績額 同上	3,737	9,590	7,405				7,315	8,376	8,045	12,210	12,270	12,324	(予算上)							
	3) 調査貸実績額 同上	7,683	10,424	10,264				9,583	9,497	12,459	12,057	12,128	12,344	(予算上)							
	4) 調査貸実績額 同上	11,422	20,074	17,669				16,878	17,873	20,344	20,344	20,344	20,668	(予算上)	48,668	48,668	48,668	48,668	48,668	グラフ No. 4	

(8)

(9)

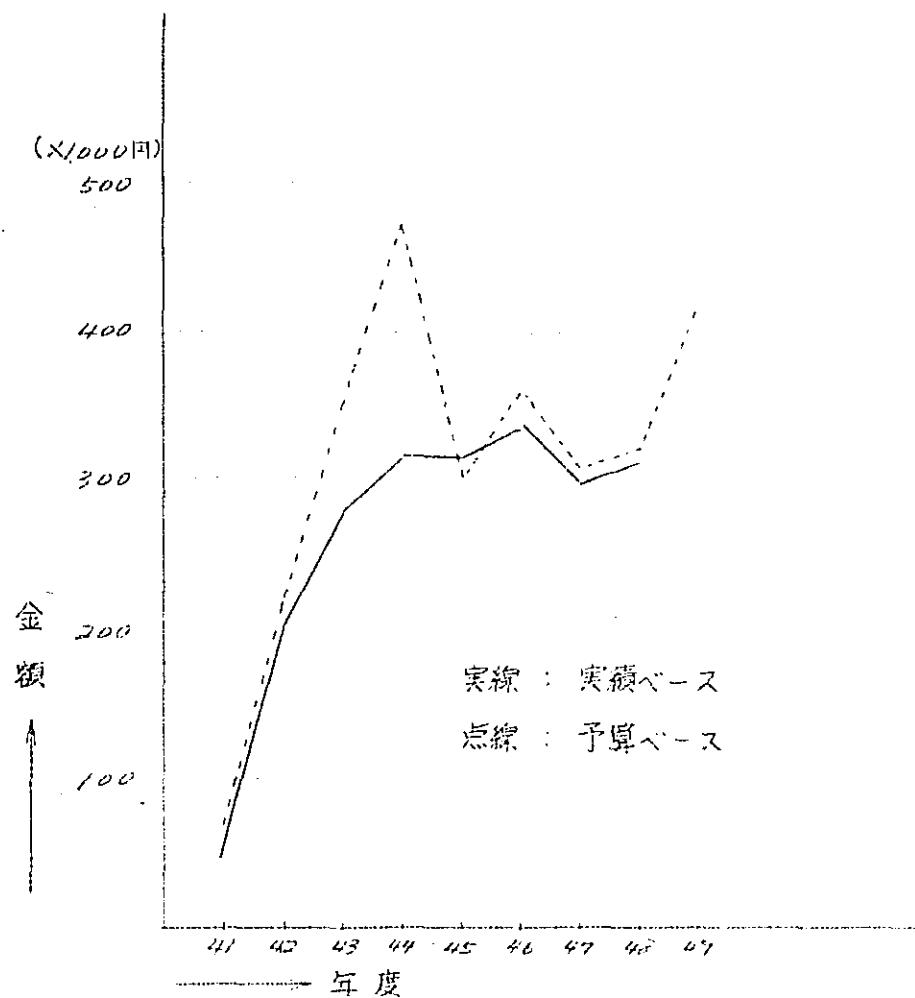
グラフ No. 1

1) 医療協力事業費(予算)の推移



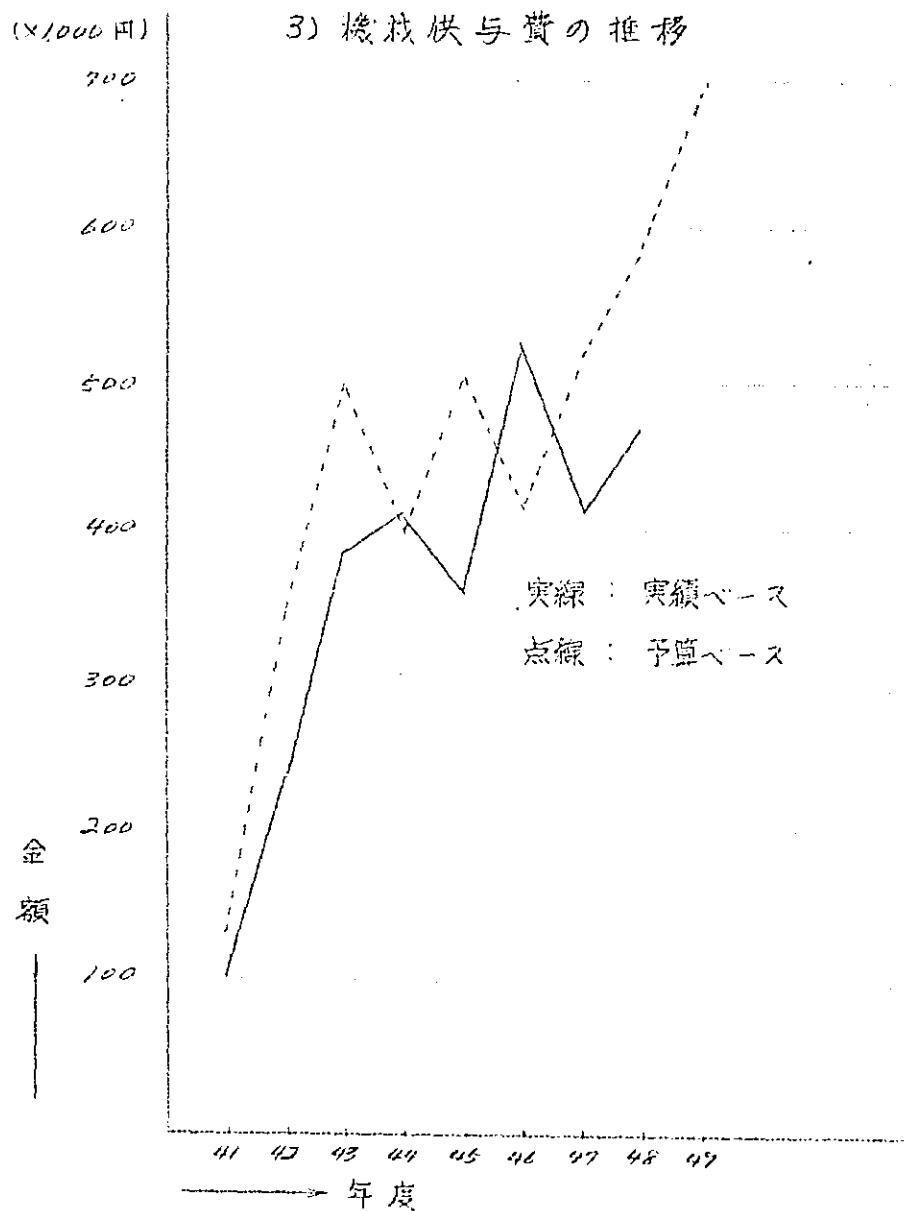
グラフ No. 2

2) 専門家派遣費の推移

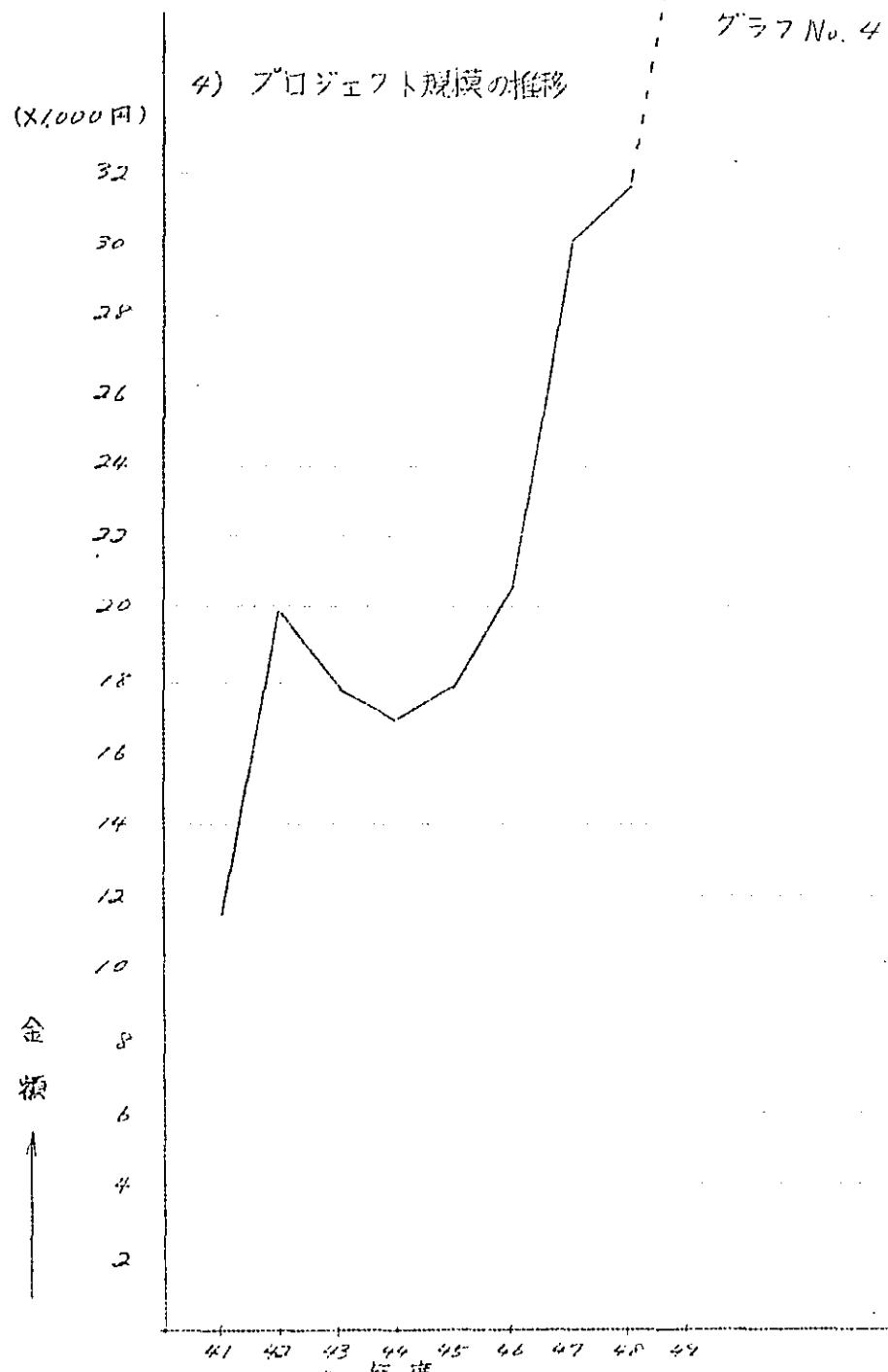


(//)

グラフ No. 3



グラフ No. 4



(13)

社会福祉対策としての医療

プロジェクト名		
1 蘭 国	カソリック医科大学産業医学センター	
2 " "	寄生虫(摸滅)対策	
3 フィリピン	コレラ 対策	
4 " "	ボリオ 対策	
5 " "	住血吸虫症対策	
6 タイ	ウイルスセンター	
7 " "	ボリオ 対策	
8 インドネシア	ワクチン製造検査	
9 " "	アンボンマラリア対策	
10 ピルマ	ウイルス研究所	
11 ネパール	尼摩公衆衛生対策	
12 スリランカ	マラリア対策	
13 アフガニスタン	結核 対策	
14 " "	マラリア対策	
15 イラン	ボリオ 対策	
16 タンザニア	結核 対策	
17 エチオピア	天然痘 対策	
18 ブラジル	カソリック大学成人病研究所	
19 パラグアイ	癲病 対策	
20 台湾	寄生虫 対策	
プロジェクト数 内々く年度以降 20件		

協力プロジェクト推移

△はR/D締結年度
()内は△の年度までの実績

協力期間	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	機材供与 実績及び予定 (△年度)
46-51						△		△			(152,743) 236,943
43-48 (48-50)			△			△					130,017
42-48 (47-50)		△		△			△				(68,170) 73,170
42-48 (47-50)		△		△			△				(169,160) 174,160
47-49 (50-51)							△				(14,409) 66,409
36-47 (48-49)			△	△		△	△				54,406
43-48											73,333
47-									△		(0) 190,000
43-48			△		△						69,641
43-46 (47-48)											70,397
48-52								△			(0) 152,572
43-44									△		17,650
47-									△		(0) 230,000
49-									△		(0) 32,712
42-44											22,430
47-											(0) 190,000
47-48 (49)						△					(18,500) 25,500
48-50								△			(0) 155,000
46-50											(46,563) 38,344
	2	5	10	10	8	7	10	12	15	14	

